

宮本茶園

2022年夏は猛暑日が例年以上に多く、野良仕事には過酷な日々が続きました。無農薬・無化学肥料への原理的なこだわりはありませんが、これまで宮本茶園は除草剤を使った事はありません。和田・上岩茶園と雑穀畑・花卉畑を毎日巡り、早朝から日没までひたすら除草作業に取り組みました。旧盆までに自分の畑はきれいにしましたが藤野茶業部の大洞茶園には手が回らず、お盆休み期間中に茶樹を覆い始めたツル草を抜き取りました。近所の先輩農家からは「暑い日中にそんなに働くものではない。お茶を飲みに寄りなさい」と度々声をかけていただき、アミーユ月曜サロンの仲間にも「熱中症にならないように気をつけてね」と心配されました。

9月24日中央高速道藤野PAで藤野特産品販売会が催され、藤野茶業部も出店する事になりました。スタッフ・出店者は6時半集合、8時の販売開始に向けて会場設営・商品搬入等慌ただしく準備作業をしていました。私は佐野川茶製品を並べ終え、軽トラを農協の駐車場に入れて再び会場に向かいました。駐車場から会場までは歩いて数分の距離ですが、上り坂で体中から汗が吹き出します。中央本線踏切の手前で立ちくらみ、ガードレールにもたれようと体を屈めたところで気を失いました。数分で意識は戻りましたが、まぶたをガードレールに打ち付けて切り、指はアスファルトで擦りむき、顔や手が血だらけです。ソンビのようにふらつきながら会場に戻ると皆から医者にかかるように勧められ、救急車を呼んでもらいました。

搬送された病院で点滴をした後、頭部のMRI検査を受けました。医師から「暑さで汗をかくいて血液が濃くなり脳の血管が詰まったようで2箇所狭くなっている部分があり、それが原因で目まいやふらつきが出るのでしょ。血をサラサラにする薬を処方しますから服用してください」と診断されました。午後になり体調が落ち着いた頃、アミーユの橋本さんが息子に私が救急搬送された事を伝えてくださり、2人で病院へ迎えに来てくれました。お礼のあいさつをした後、息子と遅い昼食をとりました。息子は「電車に乗っている間ずっとお父さんが死んでしまうのではないかと心配した。橋本さんが車で病院へ連れて行ってくれたけど、教習所に通って運転免許を取る事にするよ」と語ります。どうしようもない父親に物心ついてからずっと反発してきた息子の親孝行、胸に染みしました。

宮本透

・秋の茶仕事

9月前半は相模原市農政局で藤野茶業部の取り組みをプレゼンテーションしたり、藤野園芸センターや県農協茶業センターの会議に出席したりと藤野茶業部長としての仕事が続きました。雑穀畑のキビ収穫・大豆土寄せ等野良仕事も大忙しでしたが、厳しい残暑にめげず茶園へ秋肥を施しました。新兵器の背負い式肥料散布器をフル活用し3日間で施肥作業終了、夏の間丹精込めて手入れした茶園で夏肥の効いた緑鮮やかな若い芽がたくさん見られた事は励みになりました。秋肥の後は耕耘機で畝間を深耕、昨秋敷き詰めたススキや大豆殻・ワラ等の有機資材はほぼ分解されて土に返っています。耕耘機によって攪拌された肥料成分は根から吸収されて来年摘採される芽に蓄えられます。今年宮本茶園の茶葉評価は全て7等級以内でしたが、来年は4～6等級になるよう精進続けます。



10月になると藤野茶業部活動で一番重要な行事、県茶園共進会出品茶園予選会を兼ねた県農業技術センターの茶園巡回指導と秋整枝講習会が行われます。普及員の先生が各茶園で葉や芽の生育状態をチェックして刈る枝の位置を指示し機械操作の実技指導をするのですが、来年の収穫に直結する大切な講義で部員は真剣に聞き入っています。今年の県茶園共進会出品茶園予選会は部員が出品予定茶園を事

前にエントリーし、藤野茶業部大洞茶園を合わせ 4 茶園で競いました。宮本茶園は 2 年連続の出品を目指し、上岩で 4 等級評価の茶葉を収穫したナシバタケ(佐野川茶栽培発祥石碑のある茶園)を摘採後重点的に管理して予選会に備えました。

茶業部会で審査員の山崎先生より第 55 回神奈川県茶園共進会出品茶園が伝えられ、栃谷の中村茶園が選ばれました。予選落ちした宮本茶園は翌日から来年出品に向けて秋整枝作業の準備を始め、藤野茶業部の協同作業は月末までに全茶園の秋整枝を終わらせました。冬直前落ち着いた深緑の茶園に立つと、野良仕事の疲れが癒されます。余談ですがもうすぐ 65 歳になる私は部活動をやらずに青春時代を過ごした事が今も心残りです。甲子園やインターハイ出場を目指す高校生たちのように足柄茶品評会・県茶園共進会上位入賞を目指し茶園管理に励んでいます。



・藤野茶業部初めての産学連携

7月の事ですが、JA 藤野支店へ津久井せんべい本舗から東京家政学院大学と佐野川茶製品の粉末緑茶を使ったせんべい開発をするので見積が欲しいという依頼がありました。業務用粉末緑茶の注文を受けて納品した後は進捗状況を伝える津久井せんべいの Facebook 投稿が楽しみで、製品完成を心待ちにしていました。

12月になって藤野支店へ「せんべい新製品が完成したのでご挨拶にお伺いしたい」と電話がありました。支店長と藤野茶業部としての対応を相談し、上岩茶園を案内して学生たちと交流する事になりました。19日津久井せんべい本舗・東京家政学院大学・相模原市観光協会計7名とJA 神奈川つくい広報記者が上岩を訪ねてくださいました。私はちょうど営場のススキを茶園畝間に敷き込む作業をしていたので、世界農業遺産の茶草場農法を説明しながら宮本茶園と藤野茶業部大洞茶園を視察していただきました。前日の雨空と打って変わった晴天で富士山を望む事ができ、参加された皆さんは「こほんの里 100 選」佐野川の茶畑景観を堪能されたのではないのでしょうか。

足柄茶北端産地の歴史や佐野川茶製品開発の取り組みを

お伝えした後、学生さんから産学連携で誕生した「緑茶らてべえ」をいただきました。早速試食しましたが軽い歯ざわりで佐野川茶のほのかな渋みが活かされた上品な甘さの製品、学園祭で販売し好評を博したとの事でした。津久井せんべい本舗では当面受注製造で店頭販売の予定はないそうですが、津久井名物になる事を期待します。短い時間でしたが若い学生たちと意見交換できたのは孤独な野良仕事の刺激になりました。藤野茶業部初めての産学連携をテーマにする卒業論文の完成、お祈りしています！



・相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会まるまるマルシェ出展

コロナ禍の影響ですっと中止だったシュタイナー学園の文化祭まるまるマルシェが3年ぶりに開催されました。人気のファーマーズマーケットには無農薬・無化学肥料の有機栽培で農作物を生産しているピオ市仲間が出店します。私は2021年夏から佐野川茶栽培に豊田肥料、追悼会の花卉栽培には殺虫剤やI/B化成を使って栽培作物を確実に収穫する農法に変え、無農薬・無化学肥料が求められるピオ市を退会しました。まるまるマルシェとも縁が切れたのですが、お子さんをシュタイナー学園に通わせている古澤事務局長から「相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会」で出展するので、一緒に藤野茶業部佐野川茶の試飲販売をしません

か」と声を掛けていただきました。

準備の打ち合わせをする中で試飲は水道水ではなく銘水で入れようと意見がまとまり、ゴエモン佐野川チーム醤油仕込み以来久し振りに桐原の軍刀利神社を訪ねて湧水を汲みました。11月12日まるまるマルシェ当日、会場の割り振られたブースにテントを設営して展示パネルや追悼会しおりバックナンバーを並べ、試飲コーナーにはカセットコンロ・佐野川茶製品・雑穀街道普及会冊子を置きました。人が集まるファーマーズマーケットやステージから離れた落ち着いた雰囲気ブースで、のんびりと見学者を待ちました。

相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会と藤野茶業部佐野川茶と雑穀街道普及会をまとめて紹介する何とも奇妙な展示会でしたが、立ち寄ってくださる見学者に熱い一番棒ほうじ茶を試飲していただきながら展示物を説明しました。ダムに興味を持つ小学生が建設工事現場の写真を食い入るように見つめる姿、配布資料を見ながら熱心に橋本さんと討論する人、たくさんの出会いがありました。若い世代と献花に使う花卉栽培の話をした時、「なぜいつまでも韓国に謝らなければならないのですか？」と質問されました。「日本政府は強制連行した戦時徴用工や軍隊慰安婦に対して、謝罪も補償もしていないのですよ。日本が犯したアジア侵略戦争の歴史を学んできた農民の私にできる戦争被害者への謝罪を考え、花卉栽培をしています」と答えましたが、歴史修正主義の浸透に怒りを覚えます。44回の歴史を重ねる相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会、続ける意味を再確認した秋の一日でした。



・雑穀街道普及会・ちーむゴエモンの活動

9月4日開催の自給農耕ゼミ(佐野川)雑穀栽培講習会は残念ながら参加申し込みが無く、キビ収穫は2日間かけて私が行いました。抜いても次々と生えてくる雑草に負けそうに収量を心配しましたが、追肥にまいた化成肥料が効き刈り取ってハザ掛けした穂はずっしり重く、取り越し苦労でした。ゴエモン活動で水田の防鳥テープ張りに干木良へ伺った折高橋館にキビの脱穀をお願いし、12日に作業していただきました。自宅で計量したところ11kgあり2023年国際雑穀年記念発泡酒の原料確保、栽培責任を果たす事ができて肩の荷が下りました。

10月2日第11回自給農耕ゼミ(佐野川)は10名の参加者があり、盛況でした。木俣師から収穫方法の講義を受け、アワの穂を刈ったりブルーシートに運ばれた穂を束ねてハザカケしたりとそれぞれが役割分担して作業に取り組みました。雑穀に初めて接したと話す参加者もいて、見本園のハトムギ・シコクビエ等を珍しそうに観察しながら収穫を楽しんでいただきました。この日収穫した雑穀は全てヤギ苑で脱穀し、見本園の雑穀は木俣師に届けました。植物と人々の博物館メルマガ12月号で告知されました講習会参加者へのモロコシ贈呈、木俣師が精白していますので楽しみにお待ちください。

2022年雑穀栽培講習会が無事終了し、防雀ネット片付けを木俣師に相談したところ「一人では仕事はできません。あなたはよいチームを作ることです」という課題が出されました。ゴエモン佐野川チームの小華和さんと小嶋さんをお願いして納屋に運ぶのを手伝っていただきましたが、老人3人で重いネットを持ち上げるのは難儀でした。来年の講習会には一緒にチームを作り、土作り・植え付け・除草・収穫・片付け等々野良仕事を担ってくれるXさんの参加を熱望しております！



※佐野川での雑穀街道普及会活動に興味のある方は宮本携帯(090-2205-8476)へご連絡ください。上岩雑穀畑では雑穀栽培講習会開催の準備を進めています。